

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

徳島県

●地域における現状・課題

- ・県内中学校の運動部活動においては、少子化による部員不足に伴い、部活動の維持に悩む学校が多く、単独校では練習や大会参加が困難な事例や、小学生のときからの活動を継続できない事例がある。
- ・これまで中学生がスポーツに親しむ機会は、学校が運動部活動を設置運営する形で確保されてきたが、少子化の影響や学校の働き方改革を踏まえると、現行の仕組みを維持する困難さは、今後ますます大きくなることが予測される。
- ・各自自治体では、地域連携・地域移行へ取り組んでいるが、「地域人材の確保」、「運営団体の確保」、「費用負担の在り方」などの課題がある。

●取組事項の概要

『徳島県部活動の地域移行推進協議会』

・第1回（6月）・第2回（11月）・第3回（2月）

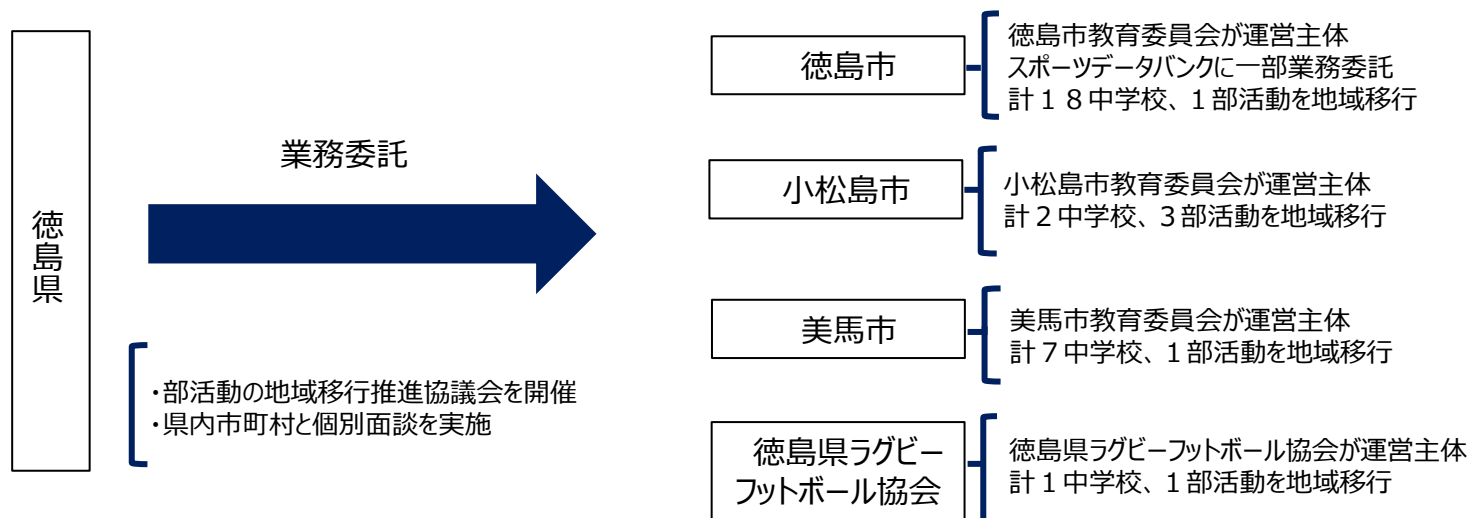
円滑な地域移行に向けた検討を進めるため、県及び市町村教育委員会や総合型地域スポーツクラブ、PTA等で構成する協議会を立ち上げ、継続して意見交換等を実施

・「市町村における部活動の地域移行等の取組状況に関するチェックリスト」を作成し、各市町村の取組を把握

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・徳島県部活動の地域移行推進協議会で、業務委託している3市1団体、また、独自の取組をしている自治体にどのような取組を実施しているか、発表していただき、他の市町村への参考とした。また、他県の取組事例を紹介したり、スポーツ庁委託先主催の実務担当者研修会で紹介のあった取組事例を紹介した。
- ・徳島県部活動の地域移行推進協議会で、スポーツ安全保険・拠点校方式について東京海上日動・徳島県中学校体育連盟より説明いただいた。
- ・県教育委員会が、「市町村における部活動の地域移行等の取組状況に関するチェックリスト」を作成実施し、各市町村の取組状況を把握した。
- ・各市町村に部活動地域移行の推進協議会の設置開催のお願いに訪問し、県内全ての市町村で開催していただいた。
- ・教育通信ふれあいひろば（広報誌）で、「運動部活動指導者人材バンク」への登録を募集した。

●運営体制図



令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

徳島県徳島市

●地域における現状・課題

- ・徳島市内には、徳島市立中学校が15校あり、生徒の約6割（約3000人）が運動部に入部し活動している。部活動数は、大規模校で15の運動部、小規模校では1つの運動部と、学校規模によって様々である。よって、自校に生徒が希望する部活動がない場合や単独でチームを編成できない部活動もある。
- ・競技経験のない部活動を担当している教職員は全体の約6割で、教職員の精神的負担感を含め、部活動指導が教職員の長時間勤務の要因の一つとなっている。
- ・令和4年度に、生徒・保護者・教職員対象に「部活動地域移行に関わるアンケート」を実施した。その結果「部活動地域移行については、生徒の約40%が賛成、わからないが約40%、保護者の約70%が概ね賛成、教職員の約80%が概ね賛成」であった。心配なこととしては「指導者の人材や資質を確保できるのか」「活動場所が確保できるのか」「安全面・トラブル対応がきちんとできるのか」「指導者と教員の連携が十分とれるのか」「保護者負担が増えるのではないのか」といった課題があげられた。

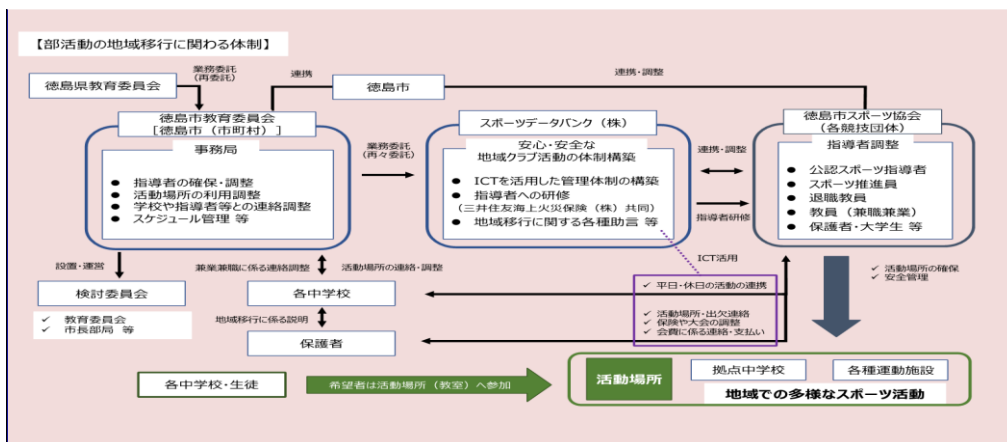
●取組事項の概要

- ・令和4年度のアンケートをもとに、課題対応に取り組んだ。「指導者確保」は各競技団体に指導者派遣の協力依頼を行った。「指導者の資質向上」は指導者への研修体制を構築した。「活動場所確保」は公共施設を活用できるよう調整し、学校施設の有効活用への協力依頼を行った。「指導者と学校との連携」「安全安心な活動体制整備」は、ICTを活用した連絡体制やICTを活用した出欠管理を行った。「保護者負担軽減」は、国の事業を活用し段階的に支援する形をとった。

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・徳島市立中学校だけでなく、県立中等教育学校や国立大学附属中学校・近隣の村立中学校にも徳島市の取組を広く周知し、希望者は参加できる体制とした。
- ・学校部活動にない競技（ライフル射撃・体幹ストレッチ・ボウリング・太極拳）についても、体験教室を開催し、様々なスポーツに親しめる機会の確保に努めた。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市区町村運営型（競技団体連携型）
- (2) 運営主体：徳島市教育委員会
- (3) 種目：卓球・弓道・陸上
- (4) 指導者の主な属性：徳島市スポーツ協会（各競技団体）
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：卓球（月2回）／弓道・陸上（年2回）
- (6) 主な活動場所：徳島市内7中学校（卓球）
：県立中央武道館（弓道）／徳島市陸上競技場（陸上）
- (7) 主な移動手段：各自（保護者負担）
- (8) 1人あたりの参加会費等（年額）：1回200円（弓道・陸上）
- (9) 1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1850円・1200円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

徳島県小松島市

●地域における現状・課題

本市の部活動の現状として部活動指導員及び支援員の配置、地域クラブの設置を実施している。運動部活動に代わる地域クラブの設置においては、教職員や保護者の期待は大きい。しかし、現在実施している地域クラブの以外の種目については、適切な指導者や受け皿の確保に至っていない。生徒や保護者、地域、教職員のニーズ、人材の確保や活動場所等の課題の解決と小松島市の実態に応じた地域クラブの体制の構築を図る必要がある。

●取組事項の概要

- | | |
|-------------------------|---------------------------------|
| ○運営主体：小松島市教育委員会 | ○指導者：退職教員（部活動指導員）、教員（兼職兼業）、市費職員 |
| ○活動種目：男子新体操、バドミントン | ○移動手段：学校への通学と同様の通学手段（自転車・徒歩等） |
| ○活動場所：各中学校体育施設、高等学校体育施設 | |

「徳島県運動部活動の地域移行推進協議会」へ参加 ※小松島市は、実証研究実施団体として参加

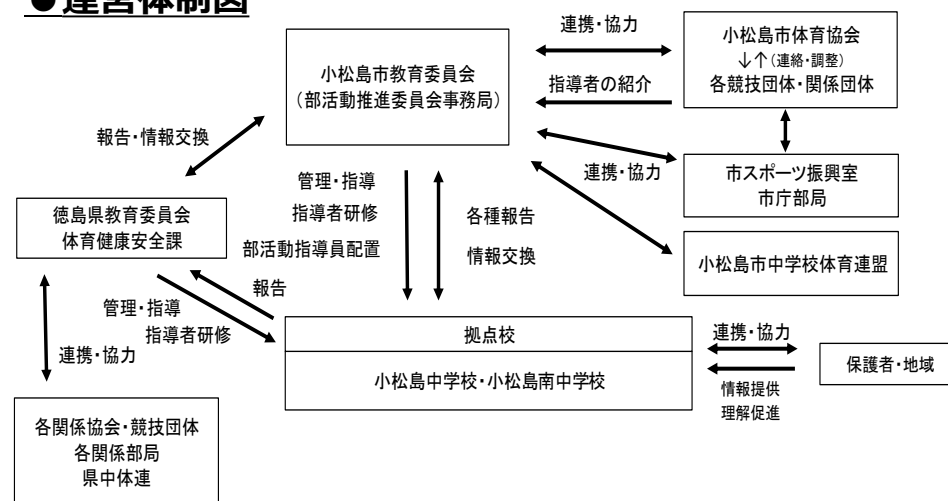
●取組の成果、特に工夫した点等

○本年度は、月1回の市中学校長会において、部活動の地域移行について幾度と意見交換を行った。兼職兼業による地域クラブの指導や拠点校指導など、教員の中には、地元で指導したいという具体的な意見が聴取できた。休日には、自分の専門分野で社会貢献したいと考えている教員もいることが分かり、地域移行に前向きな考えがあることも知ることができた。

○専門性のある部活動指導員が、地域クラブを指導することで、専門的な指導ができ、質の保証につながった。

○学校施設が使用できることは、地域クラブの活動において、活動場所の調整や参加者の移動における負担が減り、事故等のリスク軽減につながる。学校施設の開放を実証研究できたことによって、具体的な課題が明らかになった。

●運営体制図



令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

徳島県美馬市

●地域における現状・課題

- ・地域移行に対する生徒、保護者、教員の関心は高い
- ・少子化の影響で、合同チームを組んでいる部活動や自校に生徒が希望する部活動が設置されていないケースがある
- ・地域のスポーツクラブ等では指導者の人材不足や高齢化等の課題がある

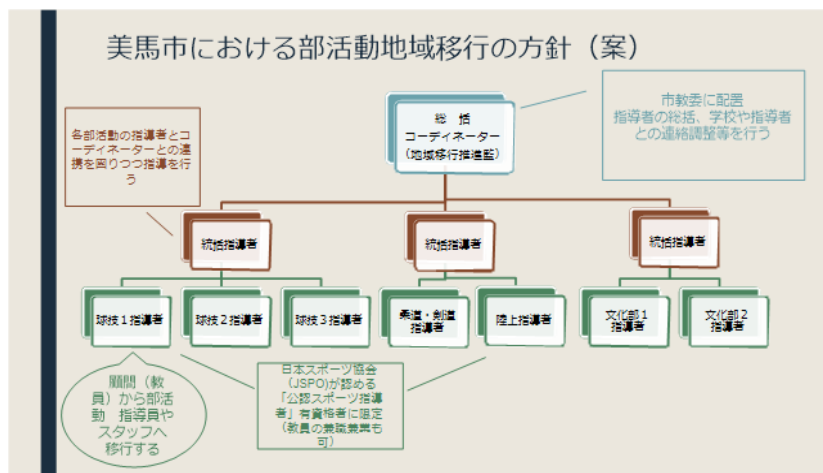
●取組事項の概要

- ・移行推進のための組織づくり（教育委員会内に担当者を配置、市地域移行推進協議会の設置と開催）
- ・地域移行を見据えた拠点校方式部活動の実施
- ・地域移行の受皿としての地域連携及び地域クラブ体制づくり
- ・スポーツ活動への訪問と聞き取りの実施

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・移行の推進のための組織を立ち上げたことで、各スポーツ団体との交流と情報の共有ができ、連携が深まった
- ・訪問やヒアリングで生徒の活動の状況を常に把握し、活動の改善に取り組み、より地域クラブの活動の質が高まった
- ・拠点校方式の活動の実施を決定し、地域移行へつながる方向性ができた

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
- (2) 運営主体：美馬市教育委員会
- (3) 種目：野球
- (4) 指導者の主な属性：元教員
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：4回
- (6) 主な活動場所：穴吹中学校グラウンド
- (7) 主な移動手段：自転車、（タクシー）
- (8) 1人あたりの参加会費等（年額）：0円